

今日のトピック ユーロ圏の金融政策(2015年3月)

3月9日から国債などの購入を開始

ポイント1 月額600億ユーロ購入

政策金利は据え置き

■欧州中央銀行(ECB)は5日、政策金利、預金金利を、それぞれ0.05%、マイナス0.20%に据え置くことを決定しました。また、月600億ユーロの国債などの購入を3月9日から開始するなどの詳細を公表しました。

■ドラギECB総裁は、現行のマイナス0.20%の預金金利までのマイナスの利回りとなった国債も購入する旨発言しました。購入規模の大きさが意識され、ユーロは対米ドルで下落、欧州株式は上昇、ドイツ国債の利回りは低下しました。

■総裁は、ギリシャ問題に関して一定の距離を置くものの、「本日緊急流動性支援(ELA)を5億ユーロ増額し」、また「条件を満たせば、ギリシャ国債は購入対象となる」と発言しました。

ポイント2 景気見通しを上方修正

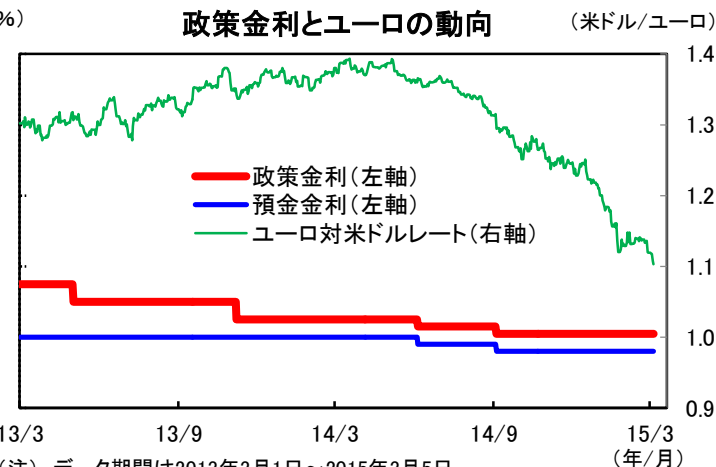
物価は年後半から徐々に上昇

■ECBは原油価格の反発、ユーロ安、量的緩和効果から、政策判断の材料となるGDP成長率見通しを上方修正する一方、今年の物価上昇率見通しを0.0%に下方修正しました。しかし、今年の後半から、景気回復の強まりとともに、徐々に上昇すると予想しています。

今後の展開

物価目標達成に向け、さらに金融緩和拡充の可能性も

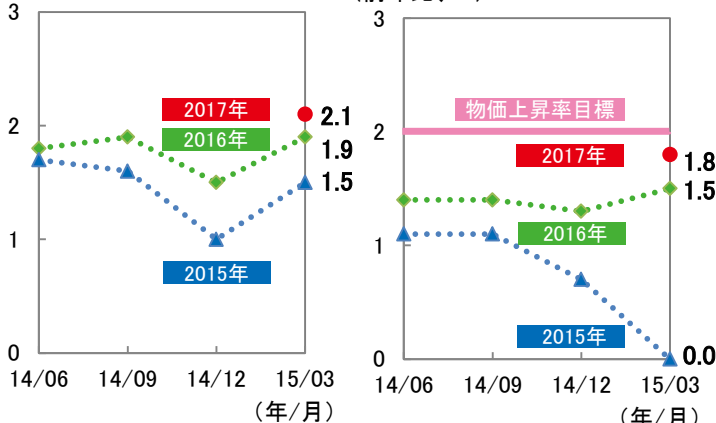
■現行の規模での金融緩和が2016年9月まで続くことを織り込んで、ECBの2016年の消費者物価の前年比上昇率の予想は1.5%にとどまっています。必要に応じて現行の金融緩和策を強化・継続するとの総裁発言もあり、物価見通しが下振れた場合や、毎月の購入額が600億ユーロに届かなかった場合などには、緩和拡充が期待されます。



(注) データ期間は2013年3月1日～2015年3月5日。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

GDP成長率見通しの改定の推移 (前年比、%) 物価上昇率見通しの改定の推移 (前年比、%)



(注) データ期間は2014年6月～2015年3月。

物価上昇率目標は、2%近くで2%を上回らない水準。

(出所) ECBのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ここも チェック!

2015年02月19日 「ギリシャ支援」は新たな展開へ(欧州)

2015年01月23日 ユーロ圏の金融政策(2015年1月) 総額1兆ユーロ超の国債などの購入策を決定

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。